

旧芝離宮、浜離宮恩賜庭園のご紹介

かながわ健生クラブ

旧芝離宮恩賜庭園(大名庭園)、浜離宮恩賜庭園(徳川家の庭園)の歴史散策を紹介します。この時期は両庭園共に桜が見頃を迎えます。ご一緒に江戸の風雅と潮風そよぐ恩賜庭園の散策を楽しみましょう。

旧芝離宮恩賜庭園:

小石川後樂園と共に、今東京に残る江戸初期の大名庭園の一つです。回遊式泉水庭園の特徴をよくあらわした庭園で、池を中心とした庭園の区画や石の配置は、非常に優れています。明暦の頃に海面を埋立て、老中・大久保忠朝が4代将軍家綱から拝領しました。庭園は「楽壽園」と呼ばれていました。

浜離宮恩賜庭園:

潮入の池と二つの鴨場をもつ江戸時代の代表的な大名庭園。潮入の池とは、海水を導き潮の満ち干によって池の趣を変えるもので、海辺の庭園で通常用いられていた様式です。池に実際に海水が出入りしているのは、ここだけです。

「潮入りの池、お伝い橋と中島の御茶屋、燕の御茶屋、三百年の松、鴨場等、見所が沢山あり1年を通して外国人を含めた多くの来園者があります。



旧芝離宮恩賜庭園

浜離宮恩賜庭園



燕の御茶屋



中島の御茶屋